

目次

I 野菜づくりの基本	1
II 農薬の使用について	2
III 農薬取扱品目一覧	3
IV 肥料取扱品目一覧	4
V 野菜品目別目次	5
VI 野菜の栽培マニュアル	6~41
VII あとがき	42

野菜づくりの基本

1 野菜作りは土づくりから

良い土とは…

①保水性がある。②通気性、排水性が良い。③肥料をよく保持する。④酸性度が適切。⑤病原菌が少ない。

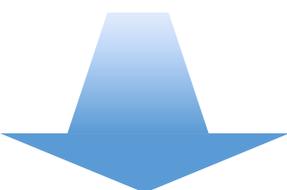
1) 有機物の投入によって排水性、保水性、保肥力、通気性などをよくする。

2) 日本の土壌は酸性土壌が多いので一般的には土壌改良材を利用して

野菜に適した弱酸性～中性に矯正する必要がある。

酸性土壌に対する強さ

酸度矯正資材投入量(石灰資材)

強	ジャガイモ、スイカ	少ない 
やや強	サツマイモ、サトイモ、スイートコーン、ダイコン	
やや弱	インゲン、エンドウ、カボチャ、キャベツ、キュウリ、トマト ナス、ニンジン、ネギ、ハクサイ、ピーマン、ブロッコリー、レタス	
弱	アスパラガス、オクラ、ゴボウ、タマネギ、ニガウリ、ホウレンソウ	

2 作付ポイント

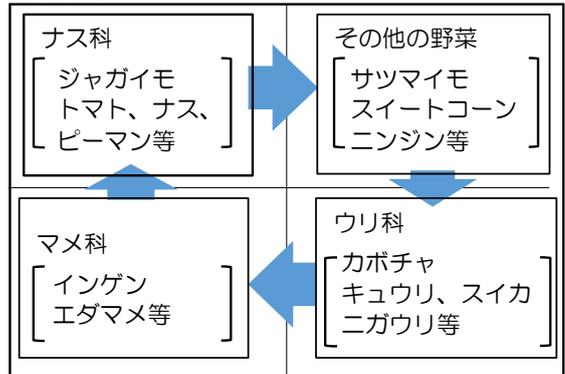
①連作せず必要に応じて輪作や休作をする。

②止むを得ない時は抵抗性品種、接ぎ木苗利用、土壌消毒等に対応する。

休作年限

4～5年	エンドウ、スイカ
3～4年	ゴボウ、サトイモ、ジャガイモ、トマト ナス、ニガウリ、ピーマン
2年	インゲン、オクラ、キャベツ、キュウリ、タマネギ ハクサイ、ブロッコリー、レタス
1年	スイートコーン、ネギ、ホウレンソウ
ないもの	カボチャ、サツマイモ、ダイコン、ニンジン

輪作例



3 病害虫の被害を減らすために

①風通し、採光、排水をよくする。 ②ほ場周辺の除草をする。

③被覆資材等の有効利用をする。

④病害虫は早期に発見し対応する。 ⑤同じ農薬は連用しない。

4 被覆資材の有効利用

マルチ用資材

黒色ポリ	雑草の発生を抑え、保温効果がある。 表面温度が高くなりやすい。
透明ポリ	低温期に地温の上昇効果が高いが、 雑草が生えやすい。

べた掛け・トンネル用資材

不織布	保温による発芽・出芽及び生育の促進 霜害軽減、防寒
寒冷紗 (黒・白)	遮光、高温抑制、防虫、防風、 防霜、防雨
ネット類	防虫、防風、鳥獣害対策

農薬の使用について

農薬の使用については、農薬取締法により農薬の適正使用が義務付けられています。食品衛生法によりすべての農薬・作物に残留農薬の基準値が定められ法律によって農産物・食品の流通が規制されます。農薬使用者の皆様は、以下の点に注意し、適正使用をお願いいたします。

1 農薬使用前には、ラベルの内容を確認しましょう。

使用前には農薬のラベルに書かれている適用内容を確認し、散布できる作物や使用量・濃度、使用時期そして成分ごとに定められている総使用回数を必ず守って使いましょう。

2 農薬は、計量器を使ってはかりましょう。

3 飛散防止に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

○風のない日を選んで散布

農薬飛散の最大要因は風です。

風のない日や風の弱い時刻を選んで散布しましょう。

また、散布中でも風向きや風速は変化するので、常に注意が必要です。

○散布の位置と方向に注意

農薬は対象とする作物だけにかかるように、できるだけ作物の近くから散布しましょう。また、ほ場の内側に向かって散布するようにします。

高さのある作物などは、枝葉のない方向へ飛ばさないように注意します。



4 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

5 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

保管場所は、食品と区別して、直射日光の当たらない、冷涼で、乾燥したところに設置する。また、耐震性、難燃性を考慮する。

6 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。



7 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。

農薬を混ぜる順番は、「テニス」

水和剤と乳剤、展着剤を混ぜて使う時は、展着剤→乳剤→水和剤の順に溶かすのが基本です。

- ① **展着剤** 展着剤は界面活性剤が含まれていて、薬を水の中に均一に分散させる力が強い。後から加える農薬がよく分散するように、最初に水に溶かしておきます。
- ② **乳剤** 乳剤にも界面活性剤が含まれています。
- ③ **水和剤** 成分が水になじみにくい水和剤を、展着剤と乳剤に含まれている界面活性剤の力を借りて分散させます。



注意! フロアブル剤やドライフロアブル剤は乳剤のあと、水和剤の前に混ぜるといい!



水和剤を先に混ぜると、水和剤の原体を付着させている石の粉が乳剤の成分を吸着してしまい、乳剤の成分も水和剤と同じような溶けにくいものにしてしまいます。

農薬取扱品目一覧

分類	農薬名	分類	農薬名	
殺虫剤	アディオン乳剤	殺菌剤	アフェットフロアブル	
	アドマイヤー1粒剤		アミスター20フロアブル	
	アフーム乳剤		カスミンボルドー	
	オルトラン粒剤		カッパーシン水和剤	
	オンコル粒剤5		ジーファイン水和剤	
	カスケード乳剤		ジマンダイセン水和剤	
	Ⓔ コテツフロアブル		スターナ水和剤	
	スタークル顆粒水溶剤		Zボルドー	
	スタークル粒剤		ダコニール1000	
	ゼンターリ顆粒水和剤		トップジンM水和剤	
	ダイアジノン粒剤5		トリフミン水和剤	
	ダントツ水溶剤		ネビジン粉剤	
	ダントツ粒剤		バリダシン液剤5	
	トレボン乳剤		ベルコートフロアブル	
	ネマトリンエース粒剤		ベンレート水和剤	
	Ⓔ ハクサップ水和剤		ランマンフロアブル	
	Ⓔ パダンSG水溶剤		ロブラール水和剤	
	フェニックス顆粒水和剤		殺ダニ	カネマイトフロアブル
	プレバゾンフロアブル5			コロマイト乳剤
	Ⓔ モスピラン顆粒水溶剤			
Ⓔ ランネート45DF				

※Ⓔの表記は毒劇物を表します。取扱いには注意してください。
 ※毒劇物を購入される場合は印鑑をお持ちください。

肥料取扱品目一覧

Mg…苦土
Si…ケイ酸
Mn…マンガン
B…ホウ素

	肥料名	肥料成分(%)				特 徴
		チツソ	リンサン	カリ	その他	
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)				(Mg15)	酸性土壌の中和と苦土分の補給資材です。 (アルカリ分53%)
	BMようりん(粉)		20		(Mg13) (Mn1) (Si20)	ようりにホウ素、マンガンを加えた肥料で、ほ場の 土壌改良と地力増進に役立ちます。
	みのり堆肥VS	0.4	0.6	0.3		針葉樹皮を堆積発酵させ有用菌を添加したバーク堆肥 です。
基肥 ・ 追肥	IB化成S1	10	10	10	(Mg1)	チツソ成分の8割が緩効性の肥料で、大粒で肥効が 長く、花卉・植木等の園芸作物にも安心して使用 できます。
	いも・まめ専用582	5	8	12		いも、豆類の基肥です。
	NK化成エース	16		10		チツソとカリ成分の肥料で野菜等の追肥に適して います。
	園芸化成(園芸特1号)	14	8	13	(Mg3) (B0.2)	園芸作物全般の基肥・追肥として用途を問わず使える 万能肥料です。 微量要素入りで欠乏症軽減に役立ちます。
	園芸有機A801号	8	8	8	(Mg3)	野菜等の基肥、追肥に適した有機入り化成肥料です。
	協同液肥1号	12	5	7		チツソ、リンサン、カリともに速効性の液肥で、 灌水施肥のほかに葉面散布で使用できます。 (500~1000倍)
	ケイ酸加里プレミア34			20	(Mg4) (Si34) (B0.1)	吸収されやすいケイ酸と、長効きするカリで作物の根張 り、品質向上に期待できます。
	硝酸入り複合肥料S604	16	10	14		硝酸態チツソ45%とアンモニア態チツソ55%をバランス よく含み、速効性の肥効を示し冬場でもよく効きます。
	新野菜有機ペレット	10	5	7		有機含有量51.5%の園芸用ペレット状肥料です。
	石灰窒素国産(粒)	20				チツソ質肥料と農薬、土づくりの3つの効果を持つ資材 です。
	ネオフルミックスS876	8	7	6		有機含有量53.8%の園芸用有機配合肥料です。
ハウレンスター	12	6	6		良質な天然腐植(木質泥炭)を使用し、ほうれんそう等の 軟弱野菜に適した肥料です。	

※みのり堆肥VSは品目の成分合計に含めておりませんのでご注意ください。

野菜品目別目次

こよみ 番号	作物名	ページ
1	えだまめ	6
2	オクラ	7
3	かぼちゃ	8
4	きゅうり	9
5	さやいんげん	10
6	さやえんどう	11
7	ししとう(とうがらし)	12
8	しょうが	13
9	すいか	14
10	甘長とうがらし (甘長ピーマン・甘とう美人 万願寺とうがらし他)	15
11	トマト	16
12	なす	17
13	ピーマン	18
14	ミニトマト	19
15	スイートコーン	20
16	かんしょ	21
17	さといも	22
18	ばれいしょ	23
19	キャベツ	24

こよみ 番号	作物名	ページ
20	はくさい	25
21	非結球あぶらな科葉菜類 (山東菜・野沢菜・パクチョイ べんり菜・みぶな・高菜他)	26
22	こまつな	27
23	チンゲンサイ	28
24	だいこん	29
25	かぶ	30
26	カリフラワー	31
27	ブロッコリー	32
28	ほうれんそう	33
29	レタス(結球)	34
30	非結球レタス (サニーレタス・リーフレタス コスレタス・サラダ菜・サンチュ他)	35
31	しゅんぎく	36
32	ねぎ	37
33	わけぎ	38
34	たまねぎ	39
35	にんじん	40
36	にんにく	41

※ししとうと甘長とうがらしは農薬の登録上の理由により別品目で記載しております。

1 えだまめ マメ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
直まき								

2 作付け目安

生育適温	20～25℃
畝幅	80～120cm
株間	20～30cm
条間	20cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	10			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	10	0.8	0.8	0.8
追肥①	いも・まめ専用582	4	0.2	0.3	0.5
追肥②	いも・まめ専用582	4	0.2	0.3	0.5
成分合計			1.2	2.2	1.8

※みのり堆肥VSは各品目の成分合計に含めておりませんのでご注意ください。

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 ヨトウムシ類 マメシクイガ	アディオン乳剤	3,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
ハスモンヨトウ マメシクイガ	プレバソンフロアブル5	4,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
マメシクイガ カメムシ類	トレボン乳剤	1,000倍	収穫14日前・2回以内	殺虫
斑点細菌病 べと病	Zボルドー	500倍	—	殺菌

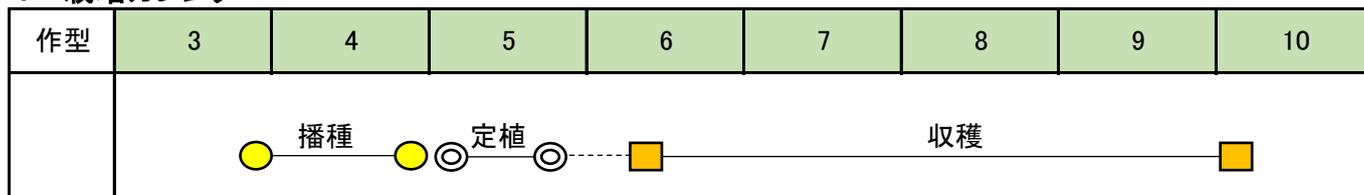
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 日当たり・風通しのよいところで栽培する。
- ・ 高温に強く、低温に弱い。土壌pHが低いと生育しにくくなる。
- ・ 春まき夏採りの場合は、マルチ栽培で地温を高める。
- ・ 鳥害防止のため、防鳥網等を被せる。
- ・ 多肥にすると、茎葉のみが成長して、着莢不良になる。
- ・ 本葉2～3枚になったら、株元に除草を兼ねて土寄せする。
- ・ 本葉4～5枚の頃摘芯することで、わき芽の発達を促し、側枝にもさやが着き、多収につながる。
- ・ 乾燥しすぎると、さやの着きが悪くなるため、適時かん水する。

2 オクラ アオイ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	20～30℃
畝幅	150cm前後
株間	40cm
条間	60cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	10			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	10	1	1	1
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
成分合計			2.2	2.4	2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 ハスモンヨトウ カメムシ類	アディオン乳剤	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類 カメムシ類	トレボン乳剤	1,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
オオタバコガ ハスモンヨトウ	プレバソフフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類	劇)モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
うどんこ病 黒斑病 葉すす病	トリフミン水和剤	5,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 高温に強く、光を好むため、地温が高くなってから、直まき又は定植する(マルチ栽培がおすすめ)。
- ・ 日当たり・排水性のよいところで栽培する。また、根が深いので、畝を高めにする事で根張りがよくなる。
- ・ 低温に弱く、10℃以下になると生育しにくくなる。
- ・ 乾燥状態が続くと、イボ果・曲がり果が発生しやすくなるため、適時かん水する。
- ・ 草勢が強すぎたり、日照不足などで低温が続くと、イボ果の発生が多くなる。
- ・ 吸肥力が強いので、定期的な追肥が必要である。
- ・ 収穫が遅れると、さやが硬くなる。8～12cm程度のさやの長さが収穫適期。収穫と同時に収穫した節の葉の1枚下までを摘葉する。

3 かぼちゃ ウリ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通				●	●	○	○	■	■			
冬至 カボチャ									●	●	○	○

2 作付け目安

生育適温	25～30℃
畝幅	270cm前後
株間	90cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量(kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	10			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	12	1.2	1.2	1.2
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
成分合計			2.4	2.6	2.2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
コガネムシ類幼虫 ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	0.4～0.6kg/a	全面土壌混和または 作条土壌混和・2回以内	殺虫
アブラムシ類 コナジラミ類	スタークル粒剤	2g/株	定植時・植穴土壌混和・ 1回	殺虫
アブラムシ類 ウリハムシ	劇モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
うどんこ病	トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	収穫前日・5回以内	殺菌
疫病 べと病 炭疽病	ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫21日前・2回以内	殺菌

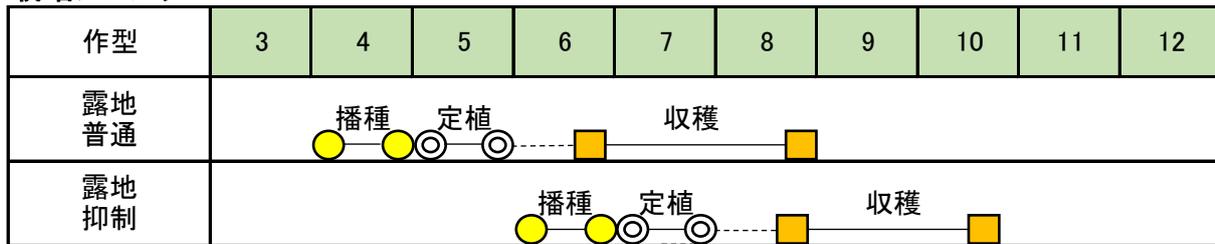
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 吸肥力が強く、チッソが多いとツルボケする(葉やツルは繁茂するが実がつかない)。
- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ ツルの生育が旺盛なため、広い面積が必要になる。
- ・ 定植は、本葉4～5枚の根張りの良い苗を選び、深植えにならないようにする。
- ・ 定植後、あんどんやホットキャップ等を被せておくと、低温障害やウリハムシ等の被害を抑制できる。
- ・ 本葉4～5枚で親づるを摘芯し、子づる2～3本仕立てにする。土や水のはね上がりを防ぐため、敷ワラをする。
- ・ 着果後(にぎりこぶし大の頃)に追肥して、果実の肥大及び草勢を維持する。
- ・ 収穫後は、風通しのよい日陰に常温で置くことで、長期保存ができる(保存追熟することで甘みも増す)。

4 きゅうり ウリ科

難易度	☆☆
-----	----

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	22～28℃
畝幅	100cm
株間	50cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	10			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	15	1.5	1.5	1.5
追肥①	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
追肥③	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
成分合計			2.5	3.1	2.5

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
コガネムシ類幼虫 ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	0.4～0.6kg/a	播種時または定植時・ 全面土壌混和または 作条土壌混和・2回以内	殺虫
アブラムシ類 コナジラミ類	スタークル粒剤	1～2g/株	定植時・植穴土壌混和・ 1回	殺虫
アブラムシ類 コナジラミ類	トレボン乳剤	1,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アザミウマ類 ハスモンヨトウ	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
べと病 褐斑病	ダコニール1000	1,000倍	収穫前日・8回以内	殺菌
うどんこ病 べと病	アミスター20フロアブル	1,500～2,000倍	収穫前日・4回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 根が浅く、過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 肥切れすると、病気が発生しやすくなるため、適時追肥とかん水をする(夏季は特に十分にかん水する)。
- ・ 株元へ敷ワラをし、梅雨期の泥のはね上がりや、夏期の地温上昇と乾燥を防ぐ。
- ・ 親づるは、株元より5～6節までの側枝と雌花は除去する。子づるは、葉2枚残して摘芯する。

5 さやいんげん マメ科

難易度	★
-----	---

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
露地								

2 作付け目安

生育適温	15～25℃
畝幅	120～150cm
株間	30～40cm
条間	50cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	15	1.2	1.2	1.2
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
成分合計			1.8	2.4	1.8

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類	Ⓒモスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
コナジラミ類 ハモグリバエ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アブラムシ類 ハモグリバエ類	アデオオン乳剤	3,000倍	収穫14日前・3回以内	殺虫
灰色かび病 菌核病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 連作障害の発生を防ぐため、3～4年の輪作とする。
- ・ 十分に気温が上がってから播種する。
- ・ 低pH土壌では、生育しにくくなる。
- ・ 高温では、落花が多くなり、さやが着きにくくなる(防暑対策が必要)。
- ・ 鳥害防止のため、本葉が成長するまで防鳥網等を被せる。
- ・ 乾燥しすぎると、さやの着きが悪くなるため、適時かん水する。
- ・ 本葉3～4枚の頃に、2回程度追肥し土寄せする。

6 さやえんどう マメ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
秋まき														

2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	100～120cm
株間	25～30cm
条間	1条まき

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	6	0.5	0.5	0.5
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
追肥③	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
成分合計			1.4	1.9	1.4

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ヨトウムシ類 ナモグリバエ	アディオン乳剤	3,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	劇 モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
ハスモンヨトウ	アフーム乳剤	2,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
灰色かび病 褐紋病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌
うどんこ病	トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	収穫前日・5回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 連作障害の発生を防ぐため、5～6年の輪作とする。
- ・ 寒さには強いが、播種が早いと年内に生長しすぎて、寒害を受けやすい。防寒対策として敷ワラをする。
- ・ 播種が遅すぎると、生育が遅れるため、分枝数が少なく、収量が上がらなくなる。
- ・ 低pH土壌では生育しにくく、pHを6.0～6.5に調整する。
- ・ 春に茎が伸びかけた頃、1ヵ所の分枝数が、6～7本になるように間引く。
- ・ 支柱を早めに立て誘引する。
- ・ 生育開始期と開花始期に追肥をする。

7 ししとう ナス科 (とうがらし)

難易度 ☆☆

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地												

2 作付け目安

生育適温	25～30℃
畝幅	80～90cm
株間	40～50cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	15	1.2	1.2	1.2
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥③	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
追肥④	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
成分合計			3.6	3.4	3.4

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 アザミウマ類	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍 2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
オオタバコガ ミカンキイロアザミウマ ミナミキイロアザミウマ	劇 コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
うどんこ病 斑点病	アフェットフロアブル (※ししとうのみ登録あり)	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌

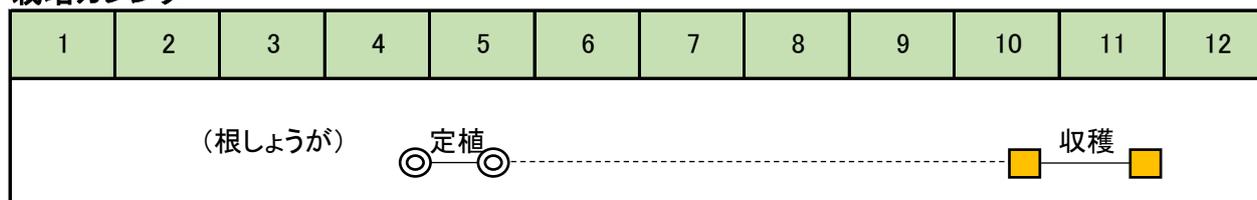
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 根が浅く、過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ ナス科野菜との連作は避ける。
- ・ 水分変動が大きかったり、乾燥が続くと、曲がり果が多くなる。
- ・ 水切れすると辛みが増す。
- ・ 生長量が大きいため、適時追肥とかん水をする。
- ・ 枝のつけ根から裂けやすいため、支柱を早めに立て誘引する。
- ・ 尻腐れ防止として、苦土石灰等を多めに施用する。

8 しょうが ショウガ科

難易度	☆☆
-----	----

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	25～28℃
畝幅	60～80cm
株間	20～30cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	15	1.2	1.2	1.2
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
成分合計			2.4	2.6	2.2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ネコブセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	2kg/a	植付前・全面土壌混和・1回	殺虫
アワノメイガ ハスモンヨトウ	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アズキノメイガ アワノメイガ	劇)パダンSG水溶剤	1,500倍	収穫7日前・5回以内	殺虫
根茎腐敗病	ランマンフロアブル	500～1,000倍 2～3ℓ/m ²	収穫30日前・3回以内・土壌灌注	殺菌
紋枯病	バリダシン液剤5	800倍	収穫14日前・4回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 連作障害の発生を防ぐため、3～4年の輪作とする。
- ・ 種しょうがは、無病のものを使用する。
- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 生育適温は25～28℃で、12℃以下では、生育しにくくなる。
- ・ 発芽に時間がかかるため、あらかじめ箱植え等して、芽出し後に定植した方が生育が順調になる。
- ・ 種しょうが1片40gに調整し、3片をまとめ植えすると大きく育つ。
- ・ 7～8月乾燥時には、敷きワラをし、かん水する。さらに2週間ごとに追肥をし、土寄せする。

9 すいか ウリ科

難易度 ☆☆☆

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
露地								

2 作付け目安

生育適温	25～30℃
畝幅	200～250cm
株間	100cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMよりん(粉)	4		0.8	
基肥	ネオフルミックスS876	10	0.8	0.7	0.6
基肥	IB化成S1	5	0.5	0.5	0.5
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
成分合計			2.1	2.4	1.9

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ミナキイロアザミウマ アブラムシ類	ダントツ粒剤	1～2g/株	定植時・植穴土壌混和・ 1回	殺虫
アブラムシ類	トレボン乳剤	1,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
アブラムシ類 アザミウマ類	劇 モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
炭疽病 つる枯病	ベンレート水和剤	2,000～3,000倍	収穫前日・5回以内	殺菌
炭疽病 つる枯病 疫病	ジマンダイセン水和剤	400～600倍	収穫7日前・7回以内	殺菌
ハダニ類	コロマイト乳剤	1,000倍	収穫7日前・2回以内	殺ダニ

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 高温・乾燥を好むため、日当たりのよいところで栽培する。
- ・ 連作障害(つる割病等)の発生を防ぐため、接ぎ木苗を使用する。
- ・ 定植後、あんどんやホットキャップ等を被せておくと、低温障害やウリハムシ等の被害を抑制できる。
- ・ 親づるを5～6節で摘芯し、子づるを3～4本仕立てにし、人工授粉により確実に着果させる(子づる15節以降に着果)。
- ・ 人工授粉から小玉種で35日前後、大玉種で45日前後が収穫目安となる。
- ・ 果実がこぶし大になった頃、追肥と中耕をする。
- ・ 鳥害防止のため、防鳥網等を被せる。

10 甘長とうがらし ナス科

難易度



(甘長ピーマン・甘とう美人・万願寺とうがらし他)

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
露地		● 播種	●◎ 定植	◎	-----	■	-----	■ 収穫

2 作付け目安

生育適温	25～30℃
畝幅	80～90cm
株間	40～50cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	15	1.2	1.2	1.2
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥③	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
追肥④	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
成分合計			3.6	3.4	3.4

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アザミウマ類		2,000倍		
オオタバコガ ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	1,000～2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類	劇) モスピラン顆粒水溶剤	8,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アブラムシ類	アディオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫7日前・2回以内	殺虫
タバコガ		2,000倍		

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ ナス科野菜との連作は避ける。
- ・ 根が浅く、過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 水分変動が大きかったり、乾燥が続くと、曲がり果が多くなる。
- ・ 水切れすると辛みが増す。
- ・ 生長量が大きいため、適時追肥とかん水をする。
- ・ 尻腐れ防止として、苦土石灰等を多めに施用する。
- ・ 定植時に、トンネル等を被せると、生育が早まり初期収量が上がる。
- ・ 枝のつけ根から裂けやすいため、支柱を早めに立て誘引する。

11 トマト ナス科

難易度 ☆☆☆

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
露地 夏秋		◎ 定植	◎	-----	■	-----	■ 収穫	■
雨よけ 春夏		定植 ◎	◎	-----	■	-----	■ 収穫	■

2 作付け目安

生育適温	20～30℃
畝幅	150～180cm
株間	45～50cm
条間	70～80cm 2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMよりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	8	0.8	0.8	0.8
基肥	ネオフルミックスS876	12	1	0.8	0.7
追肥①	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥②	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥③	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
追肥④	協同液肥1号	5	0.6	0.3	0.4
成分合計			3.8	3.9	3.3

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
オオタバコガ ハモグリバエ類	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日・5回以内	殺虫
オオタバコガ ハモグリバエ類	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
		1,000～2,000倍		
アブラムシ類 アザミウマ類	劇)モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
オオタバコガ ハスモンヨトウ	カスケード乳剤	2,000～4,000倍	収穫前日・4回以内	殺虫
		4,000倍		
輪紋病 斑点病	ロブラール水和剤	1,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌
うどんこ病 すすかび病	ベルコートフロアブル	2,000～4,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌
葉かび病・輪紋病 疫病・かいよう病	カスミンボルドー	1,000倍	収穫前日・5回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 基肥が多すぎるとツルボケを起こし、花や実のつきが悪くなる。
- ・ ナス科野菜との連作は避ける。
- ・ 葉のつけ根から、伸びてくるわき芽はすべて摘み取り、主枝は1本仕立てにする。
- ・ 第3花房が開花したところから、10日毎に追肥をする。
- ・ 上部に雨除けビニールをすることで、過繁茂や裂果を防ぎ、さらに病気の予防にもなる。
- ・ 着果促進剤として、ホルモン処理(トマトーン)する場合は、温度と濃度に気をつける(20℃以上100倍・1花房に1回)。

12 なす ナス科

難易度 ☆☆☆

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
露地 夏秋			◎ 定植	◎	■		収穫	■

2 作付け目安

生育適温	20～28℃
畝幅	150～180cm
株間	50～60cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量(kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	10	1	1	1
基肥	ネオフルミックスS876	10	0.8	0.7	0.6
追肥①	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥②	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥③	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥④	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
成分合計			3.4	4.1	3.2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
チャノホコリダニ アザミウマ類 ハスモンヨトウ オオタバコガ	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アザミウマ類 カメムシ類		2,000倍		
ハスモンヨトウ オオタバコガ	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
菌核病 すすかび病	ロブラール水和剤	1,000倍	収穫前日・4回以内	殺菌
すすかび病 うどんこ病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日・4回以内	殺菌
チャノホコリダニ ハダニ類	カネマイトフロアブル	1,000倍	収穫前日・1回	殺ダニ
		1,000～1,500倍		

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 根が深いので、畝を高くすることで根張りがよくなり、生育後半まで草勢を維持することができる。
- ・ 連作障害(青枯病、半枯病等)の発生を防ぐため、接ぎ木苗を使用する。
- ・ 主枝と1番花の直下から出るわき芽(第1側枝)と、さらにその直下から出るわき芽(第2側枝)が生育旺盛なため、主枝・第1側枝・第2側枝の3本仕立てにする(2本仕立てでも可能)。
- ・ 肥切れすると、着果不良や果皮の色あせを起こすため、適時追肥とかん水をする。
- ・ 草勢の安定維持のため、収穫時に側枝の切り戻し剪定を行うと、柔らかな実が長く収穫できる。

13 ピーマン ナス科

難易度	☆☆
-----	----

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
普通			◎ 定植	◎	■		■ 収穫	

2 作付け目安

生育適温	25～30℃
畝幅	120～130cm
株間	40～50cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	10	1	1	1
基肥	園芸有機A801号	10	0.8	0.8	0.8
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	5	0.7	0.4	0.7
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	5	0.7	0.4	0.7
追肥③	園芸化成(園芸特1号)	5	0.7	0.4	0.7
成分合計			3.9	3.8	3.9

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類	アディオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日・5回以内	殺虫
タバコガ カメムシ類		2,000倍		
アブラムシ類 アザミウマ類	劇)モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アザミウマ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
菌核病	ロブラール水和剤	1,000倍	収穫前日・4回以内	殺菌
灰色かび病		1,000～1,500倍		
炭疽病 うどんこ病 斑点病	ダコニール1000	1,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 高温に強いため、日当たりのよいところで栽培する。
- ・ 低温に弱いため、無理な早植は生育しにくくなる(夜温18℃以上必要)。
- ・ 尻腐れ防止として、苦土石灰等を多めに施用する。
- ・ 着果数が多いため、適時追肥とかん水をする。
- ・ ナス科野菜との連作は避ける。
- ・ 水分変動が大きかったり、乾燥が続くと枝が混み合い、曲がり果が多くなる。
- ・ 枝のつけ根から裂けやすいため、支柱を早めに立て誘引する。
- ・ 定植時の地温が低いと、花落ちしやすくなる(マルチをかけ地温を高める)。

14 ミニトマト ナス科

難易度



(直径3cmを超えるものは「トマト」分類です。)

1 栽培カレンダー

作型	3	4	5	6	7	8	9	10
夏秋			◎ 定植	◎	-----	■	収穫	■

2 作付け目安

生育適温	20～30℃
畝幅	90cm
株間	40cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	ネオフルミックスS876	20	1.6	1.4	1.2
追肥①	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥②	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥③	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥④	硝酸入り複合肥料S604	5	0.8	0.5	0.7
成分合計			3.6	3.9	3.1

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 オンシツコナジラミ	アデオオン乳剤	3,000倍	収穫前日・1回	殺虫
トマトサビダニ オオタバコガ	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日・5回以内	殺虫
オオタバコガ ハモグリバエ類	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	Ⓞ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
疫病 炭疽病 すすかび病	ダコニール1000	1,000倍	収穫前日・2回以内	殺菌
葉かび病 菌核病	トップジンM水和剤	1,500～2,000倍	収穫前日・5回以内	殺菌

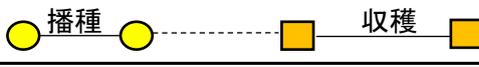
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 日当たり・排水性がよいところで栽培する。
- ・ 第1花房に20果程度着果させる。
- ・ 根が深いため、畝を高めにして根張りをよくする。
- ・ 基肥が多すぎるとツルボケを起こし、花や実のつきが悪くなる。
- ・ ナス科野菜との連作は避ける。
- ・ 大玉トマトに比べ樹勢が強いため、主枝と第1花房の直下から出るわき芽を伸ばす(2本仕立てでも可能)。
- ・ 上部に雨除けビニールをすることで、過繁茂や裂果を防ぎ、さらに病気の予防にもなる。

15 スイートコーン イネ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早まき	トンネル・マルチ 											
普通												

2 作付け目安

生育適温	22～30℃
畝幅	150cm
株間	30cm
条間	45cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸化成(園芸特1号)	10	1.4	0.8	1.3
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
成分合計			2.4	2.1	2.2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アワノメイガ オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アワノメイガ オオタバコガ	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
ヨトウムシ オオタバコガ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
アブラムシ類 アワノメイガ	アディオン乳剤	3,000倍	収穫14日前・4回以内	殺虫
		2,000倍		

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ トンネル栽培等で、早い作型でも栽培できる。
- ・ 早朝の気温が低い時に収穫する。
- ・ 収穫後は著しく糖度が低下し、日持ちしない。
- ・ 花粉が雌しべに十分にかかるよう、複数列植えにする(他家受粉)。
- ・ 倒伏防止や、葉面積及び根量を増やすため、株元のわき芽は残す。
- ・ 乾燥を嫌うため、適時かん水する。
- ・ 受粉後、雄穂はアワノメイガの発生を防ぐため、刈り取る。

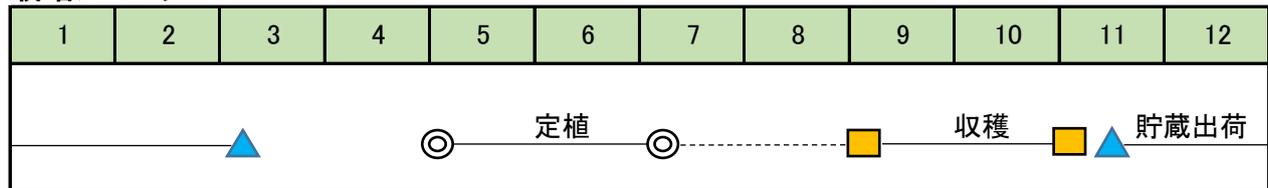
16 かんしょ

ヒルガオ科

難易度



1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	22～30℃
畝幅	80～90cm
株間	30～45cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チツソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	いも・まめ専用582	10	0.5	0.8	1.2
成分合計			0.5	1.6	1.2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類	ダントツ粒剤	0.6kg/a	育苗期・株元処理・1回	殺虫
コガネムシ類		0.6～0.9kg/a	植付前・全面処理土壌混和 または作条処理・1回	
イモコガ	アディオオン乳剤	3,000倍	収穫7日前・5回以内	殺虫
ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前・3回以内	殺虫
アブラムシ類 ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	トレボン乳剤	1,000倍	収穫7日前・3回以内	殺虫
黒斑病	トップジンM水和剤	200～500倍 (20～30分間種芋または 苗莖部浸漬)	植付前・1回	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

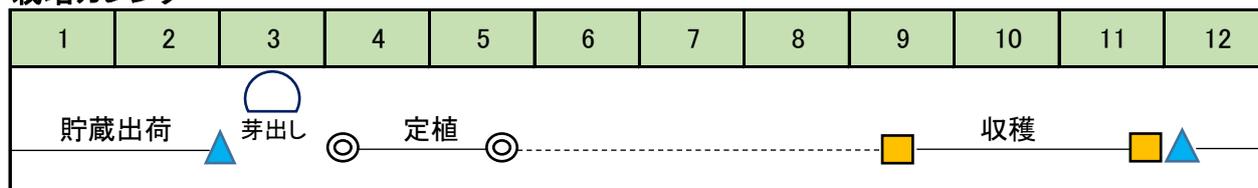
- ・ 高温・乾燥に強く、光を好む。
- ・ チツソが多いと、ツルボケする(基肥のみで追肥は不要)。
- ・ マルチ栽培は、定植後の発根・活着促進に高い効果がある。
- ・ 過湿を嫌うため、畝は高めにして排水性をよくする。
- ・ 植穴は十分かん水し、斜め植える。
- ・ マルチ栽培は、苗焼けを防ぐため、穴が見えない程度に土をかけ、さらに新聞紙等で日焼けを防ぐ。
- ・ 収穫直後よりも、2～3週間貯蔵した方が甘みが増す(デンプンが糖に変わる)。

17 さといも サイモ科

難易度



1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	25～30℃
畝幅	90～100cm
株間	30～45cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	23	1.8	1.8	1.8
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
成分合計			2.8	3.1	2.7

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類	オンコル粒剤5	0.6～0.9kg/a	植付時・植溝株元土壌混和・1回	殺虫
コガネムシ類幼虫			生育期・株元土壌混和・1回	
アブラムシ類	アデオン乳剤	3,000倍	収穫7日前・5回以内	殺虫
ハスモンヨトウ		2,000倍		
ハスモンヨトウ カンザワハダニ	劇)コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前・2回以内	殺虫
ハスモンヨトウ	プレバソフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
疫病	ジーファイン水和剤	1,000倍	前日・—	殺菌
黒斑病	トップジンM水和剤	200～500倍 (20～30分間種芋浸漬)	植付前・1回	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 連作障害の発生を防ぐため、3～4年の輪作とする。
- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして敷きワラやマルチ栽培をする。
- ・ 発芽までかなりの日数を要するため、種芋をあらかじめ芽出し処理して植え付けると、収穫が早まる。
- ・ 6月中旬～7月上旬に、子芋から発生するわき芽は除去する。
- ・ 8月までに2回程度、追肥し土寄せする(一度に多量の土を寄せると、芋が長くなるので注意する)。
- ・ 土寄せが不足すると、芋に日光が当たって緑化し、品質を損ねる。
- ・ マルチ栽培の場合は、通常の倍の深さ(15～20cm)で芽を逆さ深植えする。
- ・ 寒さに弱く(気温5℃以下)腐りやすいため、貯蔵に注意する。

18 ばれいしょ ナス科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春植え			◎ 定植	◎		■ 収穫	■					
秋植え								◎ 定植	◎		■ 収穫	■

2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	70cm
株間	30cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	10	1	1	1
追肥①	NK化成エース	3	0.5		0.3
追肥②	ケイ酸加里プレミア34	5			1
成分合計			1.5	1.8	2.3

4 防除例

主要対象病虫害名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 テントウムシダマシ類 ジャガイモガ	劇)モスピラン顆粒水溶剤	2,000～6,000倍 2,000～4,000倍 2,000倍	収穫7日前・3回以内	殺虫
アブラムシ類 テントウムシダマシ類	アディオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫14日前・4回以内	殺虫
そうか病 粉状そうか病	ネビジン粉剤	6kg/a	植付時・全面土壌混和・1回	殺菌
疫病 夏疫病	アミスター20フロアブル	3,000～4,000倍	収穫7日前・3回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

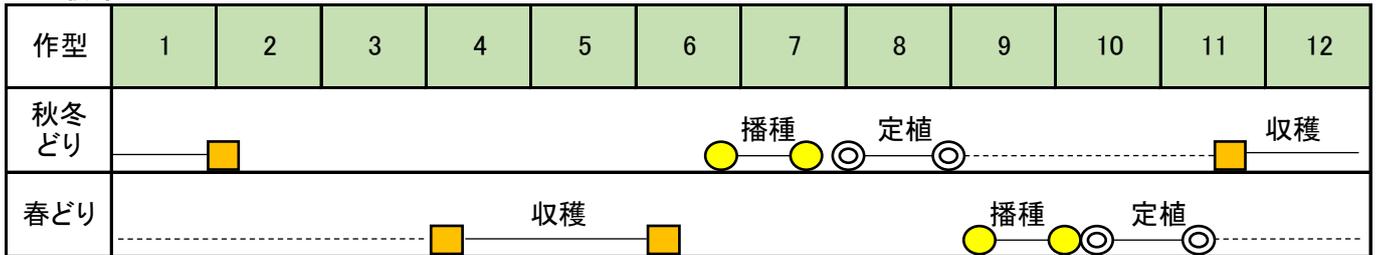
- ・ 15～20℃の気温でよく育つが、霜には弱い。
- ・ 種芋は、ウイルスに罹病していないものを購入し使用する。
- ・ ナス科野菜との連作は避ける。
- ・ 種芋は、40～70gくらいの大きさに切り分け、切り口にジャガイモシリカ等を付着させ定植する(逆さ植えも可)。
- ・ 小さめの種芋の場合は、切らずに植えることができ、腐敗防止対策にもなる。
- ・ たくさんの芽が伸びるため、勢いのよいものを2本残して、他は取り除く(芽かき)。
- ・ 草丈が15cmくらいになったら、第1回目の土寄せをする。15日後、さらに土寄せする(土寄せが不足すると、芋に日光が当たって緑化し、品質を損ねる)。
- ・ 早取り栽培の場合は、マルチ栽培でも栽培できる(土寄せ不要・緑化防止・雑草抑え)。
- ・ そうか病対策として、土壌pHを高くしないよう石灰資材を控え、種芋消毒を徹底する。

19 キャベツ アブラナ科

難易度



1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	100～120cm
株間	30～40cm
条間	45～50cm 2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMよりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸化成(園芸特1号)	14	2	1.1	1.8
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
成分合計			3.2	2.7	3

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アオムシ・コナガ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アオムシ・コナガ ハイマダラノメイガ ヨトウムシ	プレバソフフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アオムシ コナガ ハスモンヨトウ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類	劇 モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	収穫7日前・5回以内	殺虫
株腐病 黒腐病 軟腐病	バリダシン液剤5	800倍	収穫7日前・5回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 秋まきが栽培しやすい。
- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 連作障害(根こぶ病等)の発生を防ぐため、土壌pHを6.0～6.8に調整する。
- ・ 結球前までに、外葉を大きくすることが重要で、追肥を定植15日後と35日後に2回する。
- ・ 害虫の発生を防ぐため、定植後すぐに防虫ネット等を被せる。
- ・ アブラナ科野菜の連作は避ける。
- ・ カルシウム欠乏による芯腐れ症にも注意する。

20 はくさい アブラナ科

難易度	☆☆
-----	----

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
秋・年内どり								●	●	◎		■	■
冬・早春どり		■						●	●			■	■

2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	120～150cm
株間	40～50cm
条間	50cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量(kg/a)	成分量(kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸化成(園芸特1号)	12	1.7	1	1.6
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	5	0.8	0.5	0.7
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	5	0.8	0.5	0.7
成分合計			3.3	2.8	3

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アオムシ ハイマダラノメイガ ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類 コナガ ハスモンヨトウ	Ⓢ ハクサップ水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日・5回以内	殺虫
コナガ ハスモンヨトウ	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
軟腐病	スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前・3回以内	殺菌
根こぶ病	ネビジン粉剤	2～3kg/a	は種または定植前・ 全面土壌混和・1回	殺菌
白斑病 べと病	アミスター20フロアブル	2,000～3,000倍 2,000倍	収穫7日前・4回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

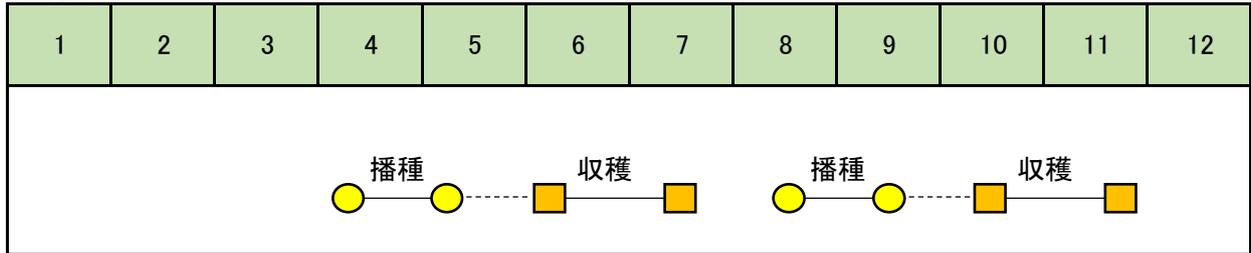
- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 発芽後、10℃以下の低温に遭うと、花芽分化し抽苔(とう立ち)を起こす。
- ・ アブラナ科野菜の連作は避ける。
- ・ 外葉が、大きく育つほど大きな球になる。そのため、芯葉の立ち上がる時期に追肥をする。
- ・ 品種が、早生種・中生種・晩生種とあり、適期に播種する(播種が遅れると、結球せず生育が止まる)。
- ・ 肥切れしないよう10～15日間隔で2回追肥をする。
- ・ 生理障害(ゴマ症・芯腐れ・縁腐れ等)が出やすいため注意する。

21 非結球あぶらな科葉菜類 アブラナ科

難易度 ☆☆☆

(山東菜・野沢菜・パクチョイ・べんり菜・みぶな・高菜他)

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	20～25℃
畝幅	100～120cm
株間	20cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸化成(園芸特1号)	10	1.4	0.8	1.3
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	2	0.3	0.2	0.3
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	2	0.3	0.2	0.3
追肥③	硝酸入り複合肥料S604	2	0.3	0.2	0.3
成分合計			2.3	2.2	2.2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
キスジノミハムシ	ダイアジノン粒剤5	0.6kg/a	は種時・全面土壌混和・1回	殺虫
ネキリムシ類			は種時または定植時・全面土壌混和・1回	
アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
キスジノミハムシ		2,000倍		
アブラムシ類 キスジノミハムシ カブラハバチ	劇) モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫7日前・1回	殺虫
アオムシ アザミウマ類 ハモグリバエ類	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫前7日・3回以内	殺虫
うどんこ病	ジーファイン水和剤	750～1,000倍	収穫前日・—	殺菌
軟腐病 白さび病		1,000倍		

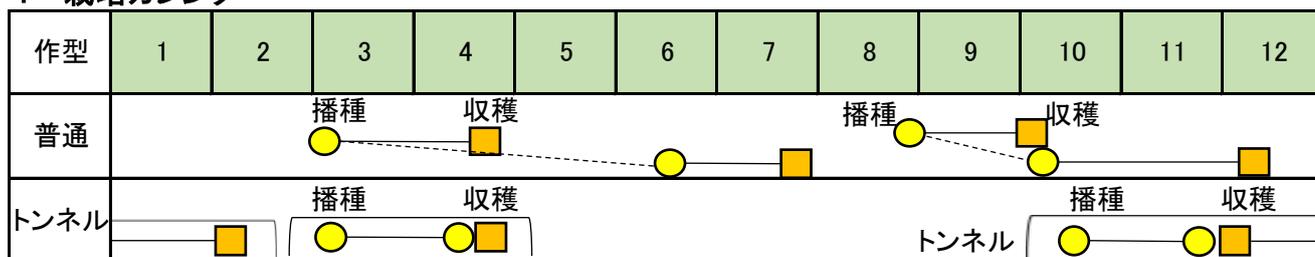
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 乾燥を嫌うため、適時かん水する。
- ・ 25℃以上では軟弱徒長し株張りが悪く、15℃以下では伸長しにくくなる。
- ・ 発芽後、一定期間低温に遭うと花芽分化し、その後の高温、長日条件で抽苔(とう立ち)するため注意する。
- ・ 初期の水管理と害虫の被害防止のため、敷きワラや不織布等を被せる。
- ・ 本葉5～6枚頃と12～15枚頃に、2回程度追肥をし土寄せする。
- ・ 草丈や分けつ数は、それぞれ条間や株間に影響されやすい。

22 こまつな アブラナ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～25℃
畝幅	120～150cm
株間	2～3cmで播種
	最終10～12cmになるよう間引き
条間	15～20cm
	4条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量(kg/a)	成分量(kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	石灰窒素国産(粒)	3	0.6		
基肥	園芸化成(園芸特1号)	14	2	1.1	1.8
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	2	0.3	0.2	0.3
成分合計			2.9	2.1	2.1

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
コナガ	アフーム乳剤	2,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
アブラムシ類 キスジノミハムシ	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
		2,000倍		
アオムシ コナガ マメハモグリバエ	カスケード乳剤	2,000倍	収穫7日前・2回以内	殺虫
アブラムシ類 キスジノミハムシ カブラハバチ	劇)モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫7日前・1回	殺虫
うどんこ病	ジーファイン水和剤	750～1,000倍	収穫前日・—	殺菌
軟腐病 白さび病		1,000倍		
白さび病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫7日前・2回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 高温に弱い(夏は寒冷紗で遮光、冬はトンネル栽培で防寒することで周年栽培が可能)。
- ・ アブラナ科野菜との連作は避ける。
- ・ 光を好むため、株間が広ければ大株になる。
- ・ 晩秋～早春まきでは、長期間低温に遭うと、抽苔(とう立ち)しやすくなる。
- ・ 害虫の発生を防ぐため、防虫ネット等を被せる。
- ・ 葉色が薄い場合は、本葉2～3枚時に速効性肥料等を追肥する。

23 チンゲンサイ アブラナ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき				● 播種	●		■ 収穫	■				
夏まき				● 播種					●		■ 収穫	■
秋まき									● 播種	●	■ 収穫	■

2 作付け目安

生育適温	15～22℃
畝幅	80～90cm
株間	5～7cmで播種
	最終12～15cmになるよう間引き
条間	10～15cm
	4条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
基肥	園芸化成(園芸特1号)	11	1.5	0.9	1.4
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	2	0.3	0.2	0.3
成分合計			1.8	1.1	1.7

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アオムシ コナガ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
アブラムシ類 キスジノミハムシ	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍 2,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
アブラムシ類 カブラハバチ	Ⓒ モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫7日前・1回	殺虫
うどんこ病 軟腐病 白さび病	ジーファイン水和剤	750～1,000倍 1,000倍	収穫前日・—	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ トンネル栽培では、低温期でも栽培できる。
- ・ 播種は、種が隠れる程度に覆土し、軽く土を押さえる。
- ・ 光を好むため、株間が広ければ大株になる。
- ・ 長期間低温に遭うと、抽苔(とう立ち)しやすくなる。
- ・ 害虫の発生を防ぐため、防虫ネット等を被せる。

24 だいこん アブラナ科

難易度



1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地	■	(春まき)	●	●	●	●	●	●	(秋まき)	●	●	●
トンネル 春出し	■	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	130cm
株間	25～30cm
条間	45cm
	2条まき

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量(kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	12	1.2	1.2	1.2
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
成分合計			2	2.4	2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 コナガ	劇 モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	収穫14日前・1回	殺虫
		2,000倍		
アブラムシ類 コナガ	トレボン乳剤	1,000～2,000倍	収穫21日前・3回以内	殺虫
アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ	劇 ランネット45DF	1,000～2,000倍	収穫21日前・2回以内	殺虫
コガネムシ類幼虫 ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	0.4～0.6kg/a	播種時・全面土壌混和または 作条土壌混和・1回	殺虫
キスジノミハムシ		0.6kg/a		
白さび病 ワッカ症	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺菌
黒斑細菌病 軟腐病 ワッカ症	カッパーシン水和剤	1,000倍	収穫14日前・3回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 高温に弱い。
- ・ 過湿を嫌うため、畝は高めにして排水性をよくする。
- ・ 未熟有機物等の投入は、肌荒れのダイコンとなるため最小限にする。
- ・ 害虫の発生を防ぐため、防虫ネット等を被せる。
- ・ 播種は極端に早くしない。
- ・ ス入りは、急激に肥大した根部に比べて、地上部の割合が小さいと多発する。
- ・ 春まきは、抽苔(とう立ち)しにくい品種を選定する。
- ・ 収穫が遅れると、割れやす入りが多くなり、品質を損ねる。

25 かぶ

アブラナ科

難易度



1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき			● 播種	●	■ 収穫	■					
秋まき		■							● 播種	●	■ 収穫

2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	120cm
株間	8～10cm
	本葉3～4枚までに25～30cmに間引き
条間	30cm
	2条まき

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量(kg/a)	成分量(kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	14	1.4	1.4	1.4
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
成分合計			2.6	2.8	2.4

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類	オルトラン粒剤	0.4kg/a	収穫21日前・1回・株元散布	殺虫
コナガ ナモグリバエ ヨトウムシ	劇コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
キスジノミハムシ		2,000倍		
軟腐病 黒斑病 べと病	Zボルドー	500倍	—	殺菌
白さび病 べと病	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺菌

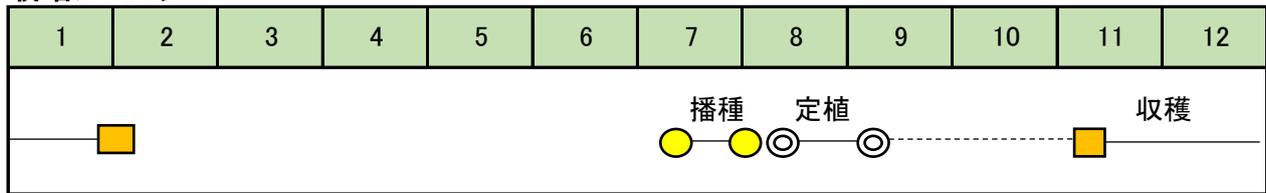
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 高温では、根が肥大しにくくなる。
- ・ 種子が細かいので、まき溝を均一にして発芽を揃える。
- ・ 長期間低温に遭うと、抽苔(とう立ち)しやすくなる。
- ・ 肥切れや急激な土壌水分の変化により、裂根になりやすくなる。
- ・ 収穫が遅れると、ス入りが多くなり品質を損ねる。
- ・ 播種後、50～60日頃が収穫適期(中カブ)。

26 カリフラワー アブラナ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	80～90cm
株間	40cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	14	1.4	1.4	1.4
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
成分合計			2.6	3	2.6

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ネキリムシ類 ケラ	ダイアジノン粒剤5	0.4～0.6kg/a	播種または定植時・全面土壌混和または作条土壌混和・1回	殺虫
アブラムシ類 コナガ	アディオオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫3日前・5回以内	殺虫
		2,000倍		
アオムシ オオタバコガ コナガ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
コナガ アブラムシ類 アオムシ	劇 モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前・3回以内	殺虫
べと病	ダコニール1000	1,000倍	出蕾前但し収穫14日前まで・3回以内	殺菌
軟腐病	スターナ水和剤	2,000倍	収穫14日前・2回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。また、肥切れしないよう基肥をしっかり施用する。
- ・ 害虫の発生を防ぐため、防虫ネット等を被せる。
- ・ 外葉を大きくすることが重要で、追肥を定植15日後と35日後に2回する(大株に育てる)。
- ・ 花蕾が直径7～8cmになった頃、日光や霜に当たらないように外葉を束ねて、ひも等で結ぶ。または、外葉を切りとって花蕾の上を覆う(不織布等でも可能)。
- ・ アブラナ科野菜との連作は避ける。
- ・ 花蕾が詰まっている時が収穫適期である(隙間ができると品質を損ねる)。

27 ブロッコリー アブラナ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー

品種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早生								● 播種	○ 定植		■ 収穫	■ 側花蕾収穫
中生	■ 側花蕾収穫							● 播種	○ 定植		■ 収穫	■ 側花蕾収穫
晩生		■ 収穫	■ 側花蕾収穫	■ 側花蕾収穫				● 播種	○ 定植			

2 作付け目安

生育適温	18～20℃
畝幅	150cm
株間	40cm
条間	45～50cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	14	1.4	1.4	1.4
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
成分合計			2.6	3	2.6

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ネキリムシ類 ケラ	ダイアジノン粒剤5	0.4～0.6kg/a	播種または定植時・2回以内 全面土壌混和または 作条土壌混和	殺虫
アオムシ コナガ ハイマダラノメイガ ハスモンヨトウ	プレバソフフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
アブラムシ類 コナガ	アディオソ乳剤	2,000～3,000倍 2,000倍	収穫3日前・5回以内	殺虫
オオタバコガ ヨトウムシ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
アオムシ アザミウマ類 アブラムシ類 コナガ	劇 モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫14日前・3回以内	殺虫
黒腐病 軟腐病 べと病	Zボルドー	500倍	—	殺菌

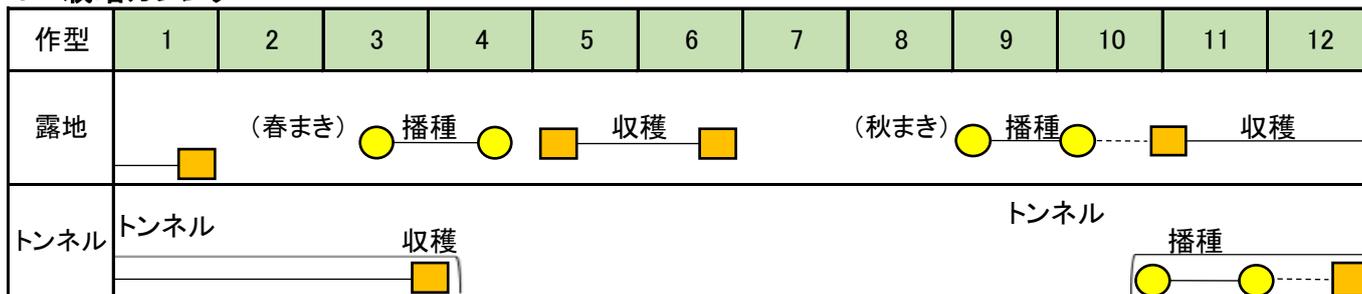
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 発芽適温は25℃。
- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 本葉4～5枚頃に植え付けする。
- ・ 外葉を大きくすることが重要で、追肥を定植15日後と35日後に2回する。
- ・ 極早生23℃以下・早生20℃以下・中生15℃以下で花芽分化する。
- ・ 花蕾が詰まっている時が収穫適期である(隙間ができると品質を損ねる)。

28 ほうれんそう アカザ科

難易度	☆☆
-----	----

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	120cm
株間	5～7cmで播種
	10～12cmになるよう間引き
条間	15～20cm
	4条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	ほうれんスター	12	1.4	0.7	0.7
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	3	0.5	0.3	0.4
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	3	0.5	0.3	0.4
成分合計			2.4	2.1	1.5

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類	ダントツ粒剤	0.6kg/a	播種時・播溝処理土壌混和・1回	殺虫
ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	プレバソフフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
ハスモンヨトウ ほうれんそうケナガコナダニ	アフーム乳剤	2,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
アブラムシ類 ウリハムシモドキ	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫3日前・2回以内	殺虫
アブラムシ類	アディオン乳剤	3,000倍	収穫14日前・2回以内	殺虫
べと病	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺菌

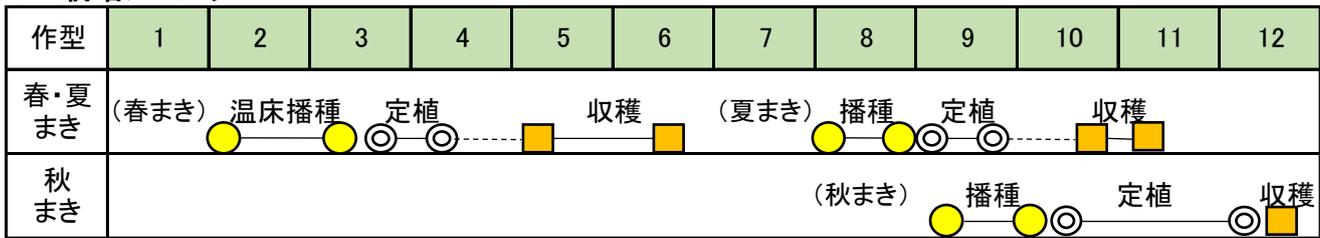
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 高温に弱く、25℃以上になると発芽不良になる。
- ・ 酸性土壌を嫌うため、苦土石灰等を施用し、pH6.3～7.0に調整する。
- ・ 春～夏まき栽培では、抽苔(とう立ち)しにくい品種を選定する。
- ・ 作型に合った、品種を選定する。
- ・ 覆土の厚さを均一にし、鎮圧とかん水をして発芽を揃える。
- ・ 高温期には、芽出し処理してから播種する。
- ・ 肥切れしないよう追肥をし、厳冬期は速効性肥料(硝酸入り複合肥料S604)を施用する。

29 レタス(結球) キク科

難易度	☆☆
-----	----

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15~22℃
畝幅	90~100cm
株間	30cm
条間	30cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	18	1.4	1.4	1.4
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	5	0.7	0.4	0.7
成分合計			2.1	2.6	2.1

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ケラ コガネムシ類幼虫 ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	0.4~0.6kg/a	播種または定植時・ 全面土壌混和または 作条土壌混和・2回以内	殺虫
ハスモンヨトウ オオタバコガ	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
ハスモンヨトウ オオタバコガ ナモグリバエ	アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
アブラムシ類 ハモグリバエ類	劇)パダンSG水溶剤	1,500倍	収穫14日前・3回以内	殺虫
すそ枯病 灰色かび病	ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前・3回以内	殺菌
菌核病 すそ枯病 灰色かび病	アフエットフロアブル	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 結球期に入ると、凍害を受けやすくなる。
- ・ 春まき栽培では、抽苔(とう立ち)しにくい品種を選定する。
- ・ 低温期にかかる作型では、マルチ栽培をする。
- ・ 光を好むため、覆土は種が薄く隠れる程度にする。

30 非結球レタス キク科

難易度



(サニーレタス・リーフレタス・コスレタス・サラダ菜・サンチュ他)

1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき			● 播種	● 定植	○	○	■ 収穫					
夏秋まき								● 播種	● 定植	○	○	■ 収穫

2 作付け目安

生育適温	15～22℃
畝幅	90～100cm
株間	30cm
条間	30cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸化成(園芸特1号)	12	1.7	1	1.6
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	2	0.3	0.2	0.3
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	2	0.3	0.2	0.3
成分合計			2.3	2.2	2.2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ケラ コガネムシ類幼虫 ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	0.6kg/a	播種または定植時・ 全面土壌混和または 作条土壌混和・2回以内	殺虫
ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
ハスモンヨトウ オオタバコガ ナモグリバエ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
アブラムシ類 ナモグリバエ ナメクジ類	パダンSG水溶剤	1,500倍	収穫14日前・2回以内	殺虫
べと病	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺菌
すそ枯病 軟腐病 腐敗病	バリダシン液剤5	800倍	収穫7日前・3回以内	殺菌

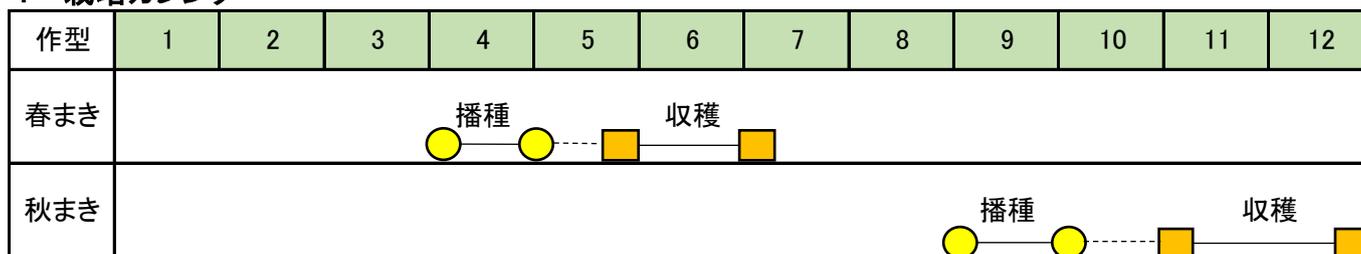
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 光を好むため、覆土は種が薄く隠れる程度にする。
- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 茎の太さが6mm以上の大苗で、高温にさらされると抽苔(とう立ち)しやすくなる。
- ・ 低温期にかかる作型では、マルチ栽培をする。

31 しゅんぎく キク科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	80～100cm (畝の床幅)
株間	10～15cm
条間	20cm
	4条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量(kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	14	1.1	1.1	1.1
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	4	0.6	0.3	0.5
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
成分合計			2.1	2.4	2

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 ハモグリバエ類	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
アザミウマ類 シロイチモジヨトウ ハモグリバエ類	アフーム乳剤	2,000倍	収穫7日前・2回以内	殺虫
アブラムシ類 ハクサイダニ	アディオオン乳剤	4,000倍	収穫21日前・2回以内	殺虫
炭疽病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- 寒さに弱いため、冬は不織布等を被せる。
- 春まき栽培では、抽苔(とう立ち)しやすくなる。
- 酸性土壌を嫌うため、石灰等でpH調整する。
- 本葉10枚くらいの頃、下葉3～4枚を残して、茎ごと摘み取る。
その後、わき芽が15cmくらいに成長した頃、収穫する。
- 光を好むため、覆土は種が薄く隠れる程度にする。

32 ねぎ

ユリ科

難易度



1 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋冬どり		■	● 播種	●		▽ 仮植	▽		○ 定植	○		■ 収穫
春夏どり					■ 収穫	■		● 播種	●		○ 定植	○

2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	70～90cm
株間	5～10cm
条間	1条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	14	1.1	1.1	1.1
追肥①	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
追肥②	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
追肥③	園芸化成(園芸特1号)	3	0.4	0.2	0.4
成分合計			2.3	2.5	2.3

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アザミウマ類	アドマイヤー1粒剤	0.4kg/a	定植時・植溝土壌混和・1回	殺虫
ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	収穫3日前・4回以内	殺虫
シロイチモジヨトウ ネギコガ ハモグリバエ類	プレバソフフロアブル5	2,000倍	収穫3日前・3回以内	殺虫
アザミウマ類 ネギコガ	アディオン乳剤	3,000倍	収穫7日前・3回以内	殺虫
シロイチモジヨトウ		2,000倍		
べと病 さび病 黒斑病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前・4回以内	殺菌
黒斑病 小菌核腐敗病	ロブラール水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前・3回以内	殺菌

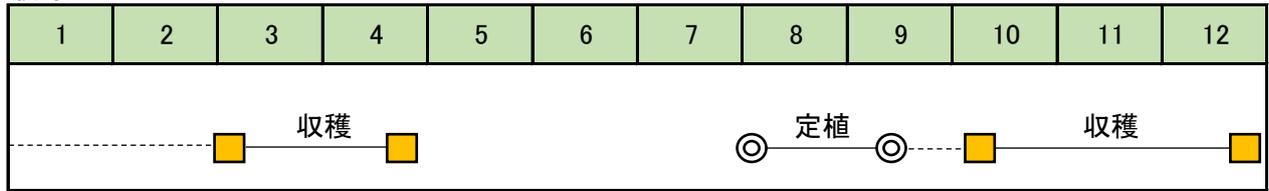
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 追肥・土寄せは、一度にたくさん行くと根を傷める。
- ・ 定植は、細根が隠れる程度に土をかけ、その上に敷ワラ等を行うことで、乾燥防止をはかる。
- ・ 酸性土壌を嫌うため、石灰等でpH調整する。
- ・ ネギぼうずは生育が止まるので、摘み取る。
- ・ 3回程度、追肥をし土寄せする。

33 わけぎ ユリ科

難易度	☆
-----	---

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	90～100cm
株間	15cm
条間	15cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	新野菜有機ペレット	10	1	0.5	0.7
追肥①	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
追肥②	園芸有機A801号	5	0.4	0.4	0.4
成分合計			1.8	2.1	1.5

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
コガネムシ類幼虫	ダイアジノン粒剤5	0.4～0.6kg/a	播種時または定植時・ 全面土壌混和または 作条土壌混和・2回以内	殺虫
アオムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日・—	殺虫
オオタバコガ ハスモンヨトウ		1,000倍		
ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	収穫3日前・4回以内	殺虫
うどんこ病	ジーファイン水和剤	750～1,000倍	収穫前日・—	殺菌
白さび病 軟腐病		1,000倍		

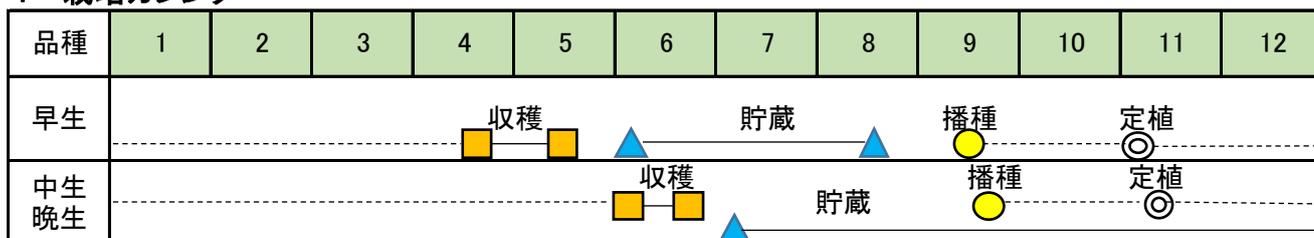
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 過湿を嫌うため、畝を高めにして排水性をよくする。
- ・ 芽をたくさん出すためには、堆肥等の土づくり資材を多く施用する。
- ・ 保管種球の場合は、外皮を取り除き定植する。
- ・ 2～3球ずつ葉先が地上に少し出る程度に定植する。
- ・ 草丈15cm程度になったら、追肥し土寄せする。15日後に2回目の追肥をする。
- ・ 地際から3cmで切った後、追肥をすると収穫が数回可能になる。

34 たまねぎ ユリ科

難易度 ☆☆☆

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～23℃
畝幅	120～150cm
株間	15cm
条間	4～5条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	石灰窒素国産(粒)	3	0.6		
基肥	IB化成S1	5	0.5	0.5	0.5
基肥	園芸化成(園芸特1号)	5	0.7	0.4	0.7
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	4	0.6	0.4	0.6
成分合計			3	2.5	2.4

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
タネバエ タマネギバエ ケラ	ダイアジノン粒剤5	0.3～0.5kg/a	播種時または定植時・ 作付前:全面土壌混和 または作条土壌混和 作物生育中:作条処理し て軽く覆土・2回以内	殺虫
アザミウマ類 ネギコガ ハスモンヨトウ	アディオソ乳剤	3,000倍	収穫7日前・5回以内	殺虫
アザミウマ類	劇)モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前・3回以内	殺虫
灰色腐敗病 べと病	ジマンダイセン水和剤	400～600倍	収穫3日前・5回以内	殺菌
白色疫病 べと病	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫7日前・4回以内	殺菌

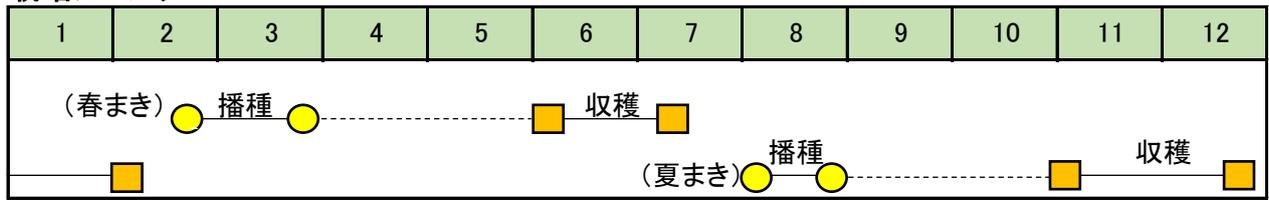
5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 播種を早くすると大苗になり、分球や抽苔(とう立ち)しやすい。
- ・ 定植は、穴あきマルチ等を使用する。
- ・ 定植が早すぎたり、追肥が遅すぎると抽苔(とう立ち)の危険性があるため、最後の追肥は遅くとも2月下旬までに終わるようにする(低温時は硝酸入り複合肥料S604を使う)。
- ・ 酸性土壌を嫌うため、石灰等でpH調整する。

35 にんじん セリ科

難易度	☆☆
-----	----

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～25℃
畝幅	75～90cm
株間	8～10cm
	2回目の間引きで10～12cm
条間	20cm
	2条まき

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	10			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	園芸有機A801号	6	0.5	0.5	0.5
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	3	0.5	0.3	0.4
追肥②	硝酸入り複合肥料S604	3	0.5	0.3	0.4
追肥③	硝酸入り複合肥料S604	3	0.5	0.3	0.4
成分合計			2	2.2	1.7

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	1.5～2.0kg/a 2.0kg/a	播種前・ 全面土壌混和・1回	殺虫
キアゲハ ヒョウタンゾウムシ類 ヨトウムシ	劇 コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アブラムシ類 キアゲハ	劇 モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫前日・3回以内	殺虫
うどんこ病	トリフミン水和剤	3,000倍	収穫前日・3回以内	殺菌
黒葉枯病 斑点病	ロブラール水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前・4回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 夏まきが栽培しやすい。
- ・ 発芽をよくするため、播種前と播種・覆土後はしっかり鎮圧する。
- ・ 乾燥を防ぐため、敷ワラ等をし、適時かん水する。
- ・ 播種の直前に未熟堆肥を与えると歧根になりやすい。
- ・ 本葉3～4枚のころ、間引きして、さらに追肥をし土寄せをする。
- ・ 裂根等の原因となる多雨・過乾燥・肥料不足・取り遅れ等に注意する。

36 にんにく ユリ科

難易度 ☆☆

1 栽培カレンダー



2 作付け目安

生育適温	15～20℃
畝幅	90～100cm
株間	15～20cm
条間	25～30cm
	2条植え

3 施肥例

肥料の種類	肥料名	施肥量 (kg/a)	成分量 (kg/a)		
			チッソ	リンサン	カリ
土づくり	みのり堆肥VS	200	0.8	1.2	0.6
土づくり	炭酸苦土石灰(粒)	15			
土づくり	BMようりん(粉)	4		0.8	
基肥	IB化成S1	10	1	1	1
基肥	園芸有機A801号	4	0.3	0.3	0.3
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	3	0.5	0.3	0.4
追肥①	硝酸入り複合肥料S604	3	0.5	0.3	0.4
成分合計			2.3	2.7	2.1

4 防除例

主要対象病害虫名	農薬名	希釈倍数	使用時期・使用回数	虫・菌
アブラムシ類 ネギコガ	アディオソ乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
アザミウマ類 アブラムシ類 ネギコガ	Ⓢ モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日・2回以内	殺虫
さび病 葉枯病	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫7日前・3回以内	殺菌
春腐病 白斑葉枯病 さび病	Zボルドー	500倍	—	殺菌
黄斑病 さび病 葉枯病 白斑葉枯病	ダコニール1000	1,000倍	収穫7日前・6回以内	殺菌

5 特徴・栽培管理のポイント

- ・ 日当たり・排水性のよいところで栽培する。
- ・ 酸性土壌を嫌うため、石灰等でpH調整する。
- ・ 春先のアブラムシ類及び春腐病(はるぐされ病)の発生に注意する。
- ・ 種球は、大きくて首しまりがよいものを選定する。
- ・ 定植は、薄皮をむいて尖った方を上にして深さ5～6cmにする。
- ・ 花蕾(ニンニクの芽)は、摘み取る。

あとがき

本冊子をご覧いただきありがとうございます。

本冊子は栽培カレンダー・作付け目安・施肥例・防除例・特徴・栽培管理のポイントを代表的な品目36種類ごとに記載しております。これから野菜栽培を始める方や、既に産直施設等へ出荷されている方など、野菜栽培に携わる方々に生産現場で活用していただけるように栽培に関する情報をまとめました。

この度、JA尾張中央は合併20周年を迎え、「ありがとう20周年 これからも農業・地域とともに」というテーマを掲げており、本冊子の活用で地域農業の発展や農家所得向上・品質向上のお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、本冊子の発刊にあたり営農技術指導員を中心として冊子作成にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

※当資料内の農薬の適用病害虫・希釈倍数等は、2021年12月1日現在の登録を反映しております。農薬の使用に当たっては、有効期限(最終有効年月)以内の農薬を、ラベルの記載に従って使用してください。

野菜栽培のきほん

監 修：JAあいち経済連生産資材部 肥料農薬課
尾張中央農業協同組合 営農技術指導員 磯部隆之
尾張中央農業協同組合 営農技術指導員 江本勝義
尾張中央農業協同組合 営農技術指導員 大藪哲也

作 成：尾張中央農業協同組合 農業振興部 営農指導課

連絡先：尾張中央農業協同組合 農業振興部 営農指導課
〒486-0849
春日井市八田町1-16-3
JA尾張中央春日井中央支店2階
TEL 0568-44-1001
FAX 0568-84-6501

農薬のはかり方

スポイト、計量スプーン、カップなどの計量器を使ってはかるようにし目分量では行わないでください。



希釈早見表

希釈倍数	水1L当りの薬量	水4L当りの薬量	水10L当りの薬量	水18L当りの薬量	薬剤1袋(瓶)当りの希釈水量			
					100 g・袋 ml瓶	250 g・袋 ml瓶	500 g・袋 ml瓶	1 kg・袋 L瓶
7倍	142 g/ml	571 g/ml	1.4 kg/L	2.5 kg/L	700 ml	1.8 L	3.5 L	7 L
10倍	100 g/ml	400 g/ml	1 kg/L	1.8 kg/L	1 L	2.5 L	5 L	10 L
16倍	62.5 g/ml	250 g/ml	625 g/ml	1.1 kg/L	1.6 L	4 L	8 L	16 L
20倍	50 g/ml	200 g/ml	500 g/ml	900 g/ml	2 L	5 L	10 L	20 L
50倍	20 g/ml	80 g/ml	200 g/ml	360 g/ml	5 L	12.5 L	25 L	50 L
100倍	10 g/ml	40 g/ml	100 g/ml	180 g/ml	10 L	25 L	50 L	100 L
150倍	6.6 g/ml	26.6 g/ml	66.6 g/ml	120 g/ml	15 L	38 L	75 L	150 L
200倍	5 g/ml	20 g/ml	50 g/ml	90 g/ml	20 L	50 L	100 L	200 L
250倍	4 g/ml	16 g/ml	40 g/ml	72 g/ml	25 L	63 L	125 L	250 L
300倍	3.3 g/ml	13.3 g/ml	33.3 g/ml	60 g/ml	30 L	75 L	150 L	300 L
400倍	2.5 g/ml	10 g/ml	25 g/ml	45 g/ml	40 L	100 L	200 L	400 L
500倍	2 g/ml	8 g/ml	20 g/ml	36 g/ml	50 L	125 L	250 L	500 L
600倍	1.6 g/ml	6.6 g/ml	16.6 g/ml	30 g/ml	60 L	150 L	300 L	600 L
700倍	1.4 g/ml	5.7 g/ml	14.2 g/ml	25.7 g/ml	70 L	175 L	350 L	700 L
750倍	1.3 g/ml	5.3 g/ml	13.3 g/ml	24 g/ml	75 L	188 L	380 L	750 L
800倍	1.2 g/ml	5 g/ml	12.5 g/ml	22.5 g/ml	80 L	200 L	400 L	800 L
1,000倍	1 g/ml	4 g/ml	10 g/ml	18 g/ml	100 L	250 L	500 L	1,000 L
1,200倍	0.8 g/ml	3.3 g/ml	8.3 g/ml	15 g/ml	120 L	300 L	600 L	1,200 L
1,500倍	1.6 g/ml	2.6 g/ml	6.6 g/ml	12 g/ml	150 L	375 L	750 L	1,500 L
2,000倍	0.5 g/ml	2 g/ml	5 g/ml	9 g/ml	200 L	500 L	1,000 L	2,000 L
2,500倍	0.4 g/ml	1.6 g/ml	4 g/ml	7.2 g/ml	250 L	630 L	1,250 L	2,500 L
3,000倍	0.3 g/ml	1.3 g/ml	3.3 g/ml	6 g/ml	300 L	750 L	1,500 L	3,000 L

[参考] 水1cc = 1g 1.000cc = 1L ・ 作りたい水量 ÷ 指定倍率 = 必要な薬剤量